



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

授乳と薬

母乳にはたくさん良い点があり、赤ちゃんにとって有益な成分であるタンパク質や脂質、ビタミン類、ミネラル、塩分、酵素などが数多く含まれています。また、栄養面でのバランスだけでなく、感染予防や免疫機能を高める効果、授乳によって母子間の愛着を形成するのにも役立つています。

お母さんが薬を服用すると、多くの薬は小腸などの消化管から吸収されて血液の中に入り、全身に運ばれていきますが、その一部が乳房にある乳腺にも運ばれます。母乳は、乳腺で血液から作られているため、乳腺に到達した薬は母乳に入ってしまうのです。しかし、その量はとても少ないことが知られており、授乳中は必ずしも薬の服用ができないわけではありません。もちろん、授乳中は服用を避けた方がよい薬もあるので、薬を服用する際には、医師か薬剤師に授乳

中である旨を伝えて、その指示に従ってください。また、授乳中でも服用できる安全な薬でも、薬を服用している間は、念のため赤ちゃんの様子を注意深く観察し、普段と違っていたり、眠る時間が多くなったりすることがあれば、薬の影響を受けている可能性もあるので、医師か薬剤師にご相談ください。

また、赤ちゃんの月齢も関係してきます。生まれて間もない新生児では肝臓や腎臓の機能が十分発達していないため、副作用が起こる危険性が高くなりますが、生後3カ月までには肝臓の機能は成熟し副作用の可能性もさがります。さらに、離乳食が始まるころになると、赤ちゃんの摂取する母乳の量も減ってくるので影響は少なくなると考えられます。

薬を服用するタイミングを授乳に合わせて変えることができるのであれば、服薬直後の授乳又は授乳直後の服用で薬の影響をより少なくすることができですが、授乳中でも服用で

きる安全な薬であれば、そこまで神経質になることはありません。

赤ちゃんへの影響を考えて服用をためらわれることがあるかもしれませんが、薬を服用せずにお母さんの具合が悪くなると、子育てにも影響が出てきます。母乳に移行する薬の量は非常に少ないケースがほとんどですので、薬をきちんと服用してお母さんの体調がよくなるのが、赤ちゃんの健康にもつながります。しかし、中には赤ちゃんに影響を及ぼす恐れのある薬もあるため、医師か薬剤師にお尋ねください。

また、授乳を中止するとホルモンバランスの変化などによって、授乳を再開することが困難になることがあるので、もし、授乳を中止しないといけないような場合には、ご自身で搾乳するなどして母乳を出し続けて授乳再開に備えることが必要です。

(北区) 薬局エビノファーマシー

松本 博志